

2009年3月期
決算説明資料
(2008年4月～2009年3月)

2009年5月19日

東洋合成工業株式会社

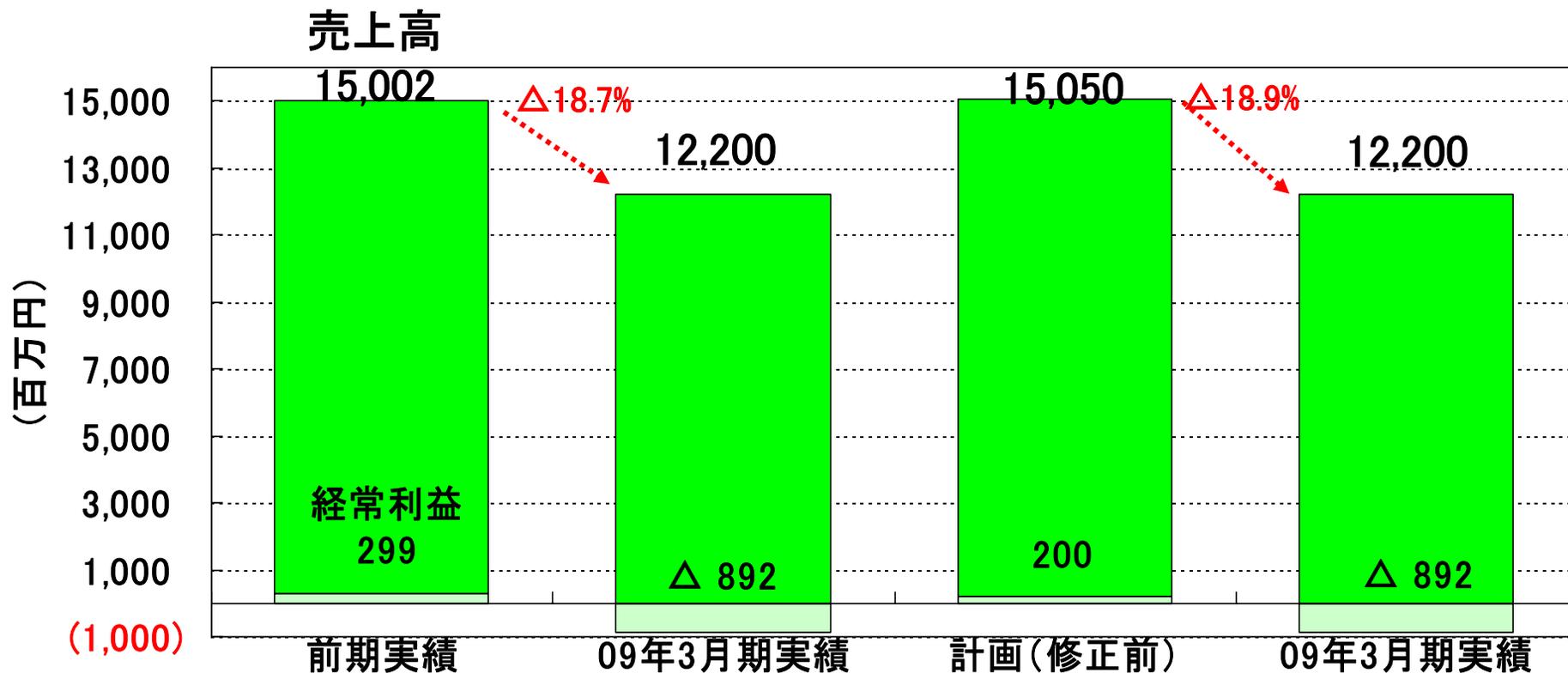
■ 目次

1. 2009年3月期 決算概要
2. 2010年3月期 通期見通し
3. 今後の展望

1 . 2009年3月期 決算概要

2009年3月期のポイント

- 売上高は、前年比・計画比とも大幅に減少し、前年比18.7%減、計画比18.9%減。
 - 年度後半からの景気減速の影響大
- 経常利益は、前年比で減益
 - 原油高による原材料費・燃料費の高騰(年度前半)
 - 景気減速に伴う生産量の減少による稼働率の低下(年度後半)
 - 棚卸資産の低価法適用による評価損の計上



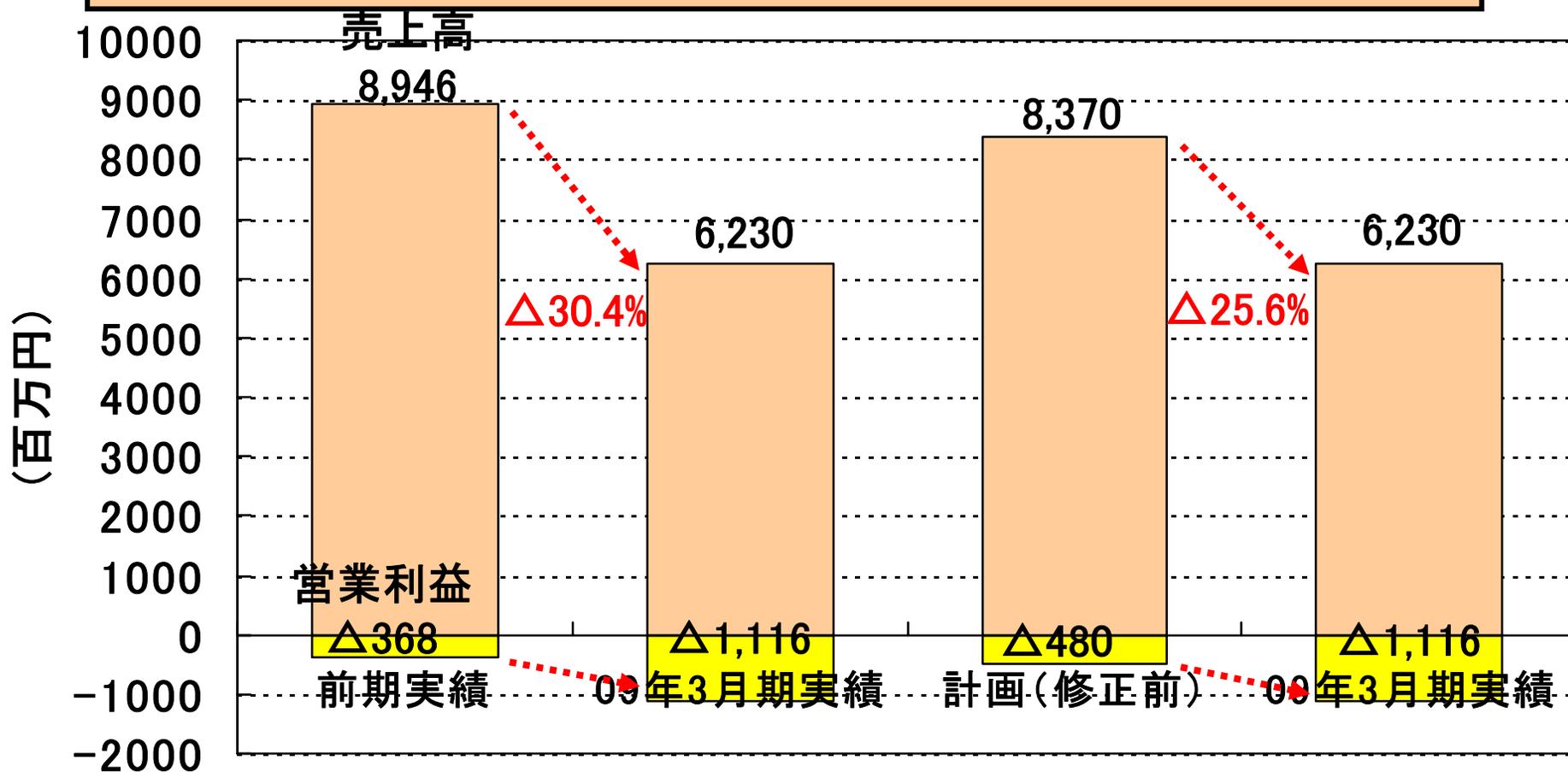
2008年4月27日に「平成21年3月期通期業績予想の修正」を発表致しましたが、本決算資料では、修正前の計画でご説明させていただきます。

■ 全社 2009年3月期 決算概要

科目 (百万円)	2008年 3月期 実績	2009年 3月期 実績	前年比		計画 (修正前)	差異
			増減	%		
売上高	15,002	12,200	△2,801	△18.7	15,050	△2,850
感光性材料	8,946	6,230	△2,716	△30.4	8,370	△2,140
化成品	4,420	4,411	△8	△0.2	5,040	△629
ロジスティック	1,635	1,558	△76	△4.7	1,640	△82
営業利益	474	△673	△1,147	-	400	△1,073
感光性材料	△368	△1,116	△747	-	△480	△636
化成品	315	△29	△345	-	400	△429
ロジスティック	526	472	△54	-	480	△8
経常利益	299	△892	△1,192	-	200	△1,092
当期純利益	159	△964	△1,123	-	300	△1,264

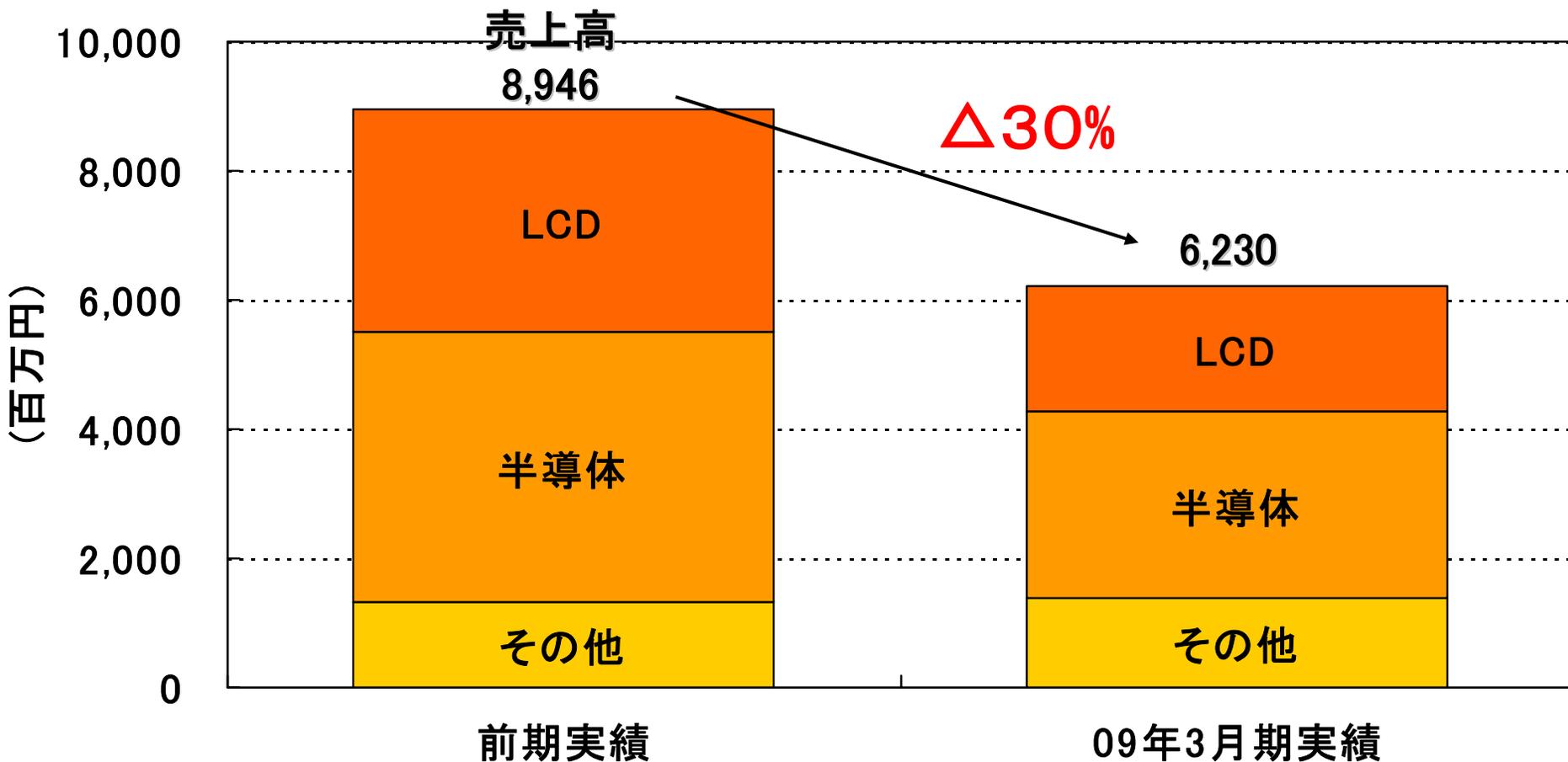
■感光性材料事業 売上高・営業利益

- 売上高は前年比30.4%減少。
 - 売上高は、景気減速に伴い、第2四半期後半以降、液晶パネルメーカー及び半導体メーカーの生産調整が本格化し、受注の急減により減少。
 - 営業利益は、原材料・燃料費の高騰、稼働率の低下に伴う原価上昇、低価法適用による評価損発生により大幅減益。



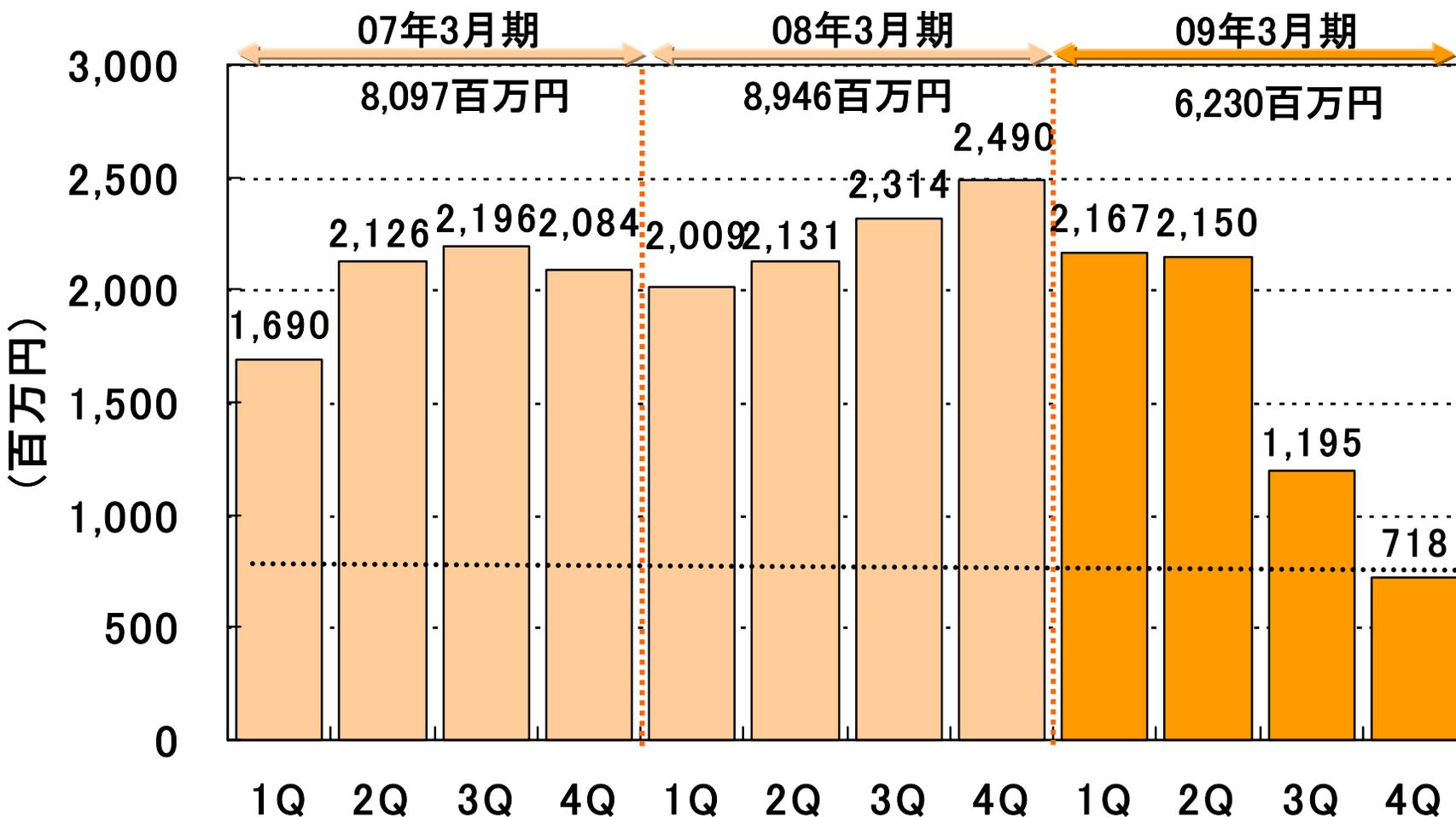
■ 感光性材料事業 用途別売上高

・ LCDパネル/半導体メーカーの生産調整の影響を受け、LCD用途向け及び半導体用途共に売上減少。



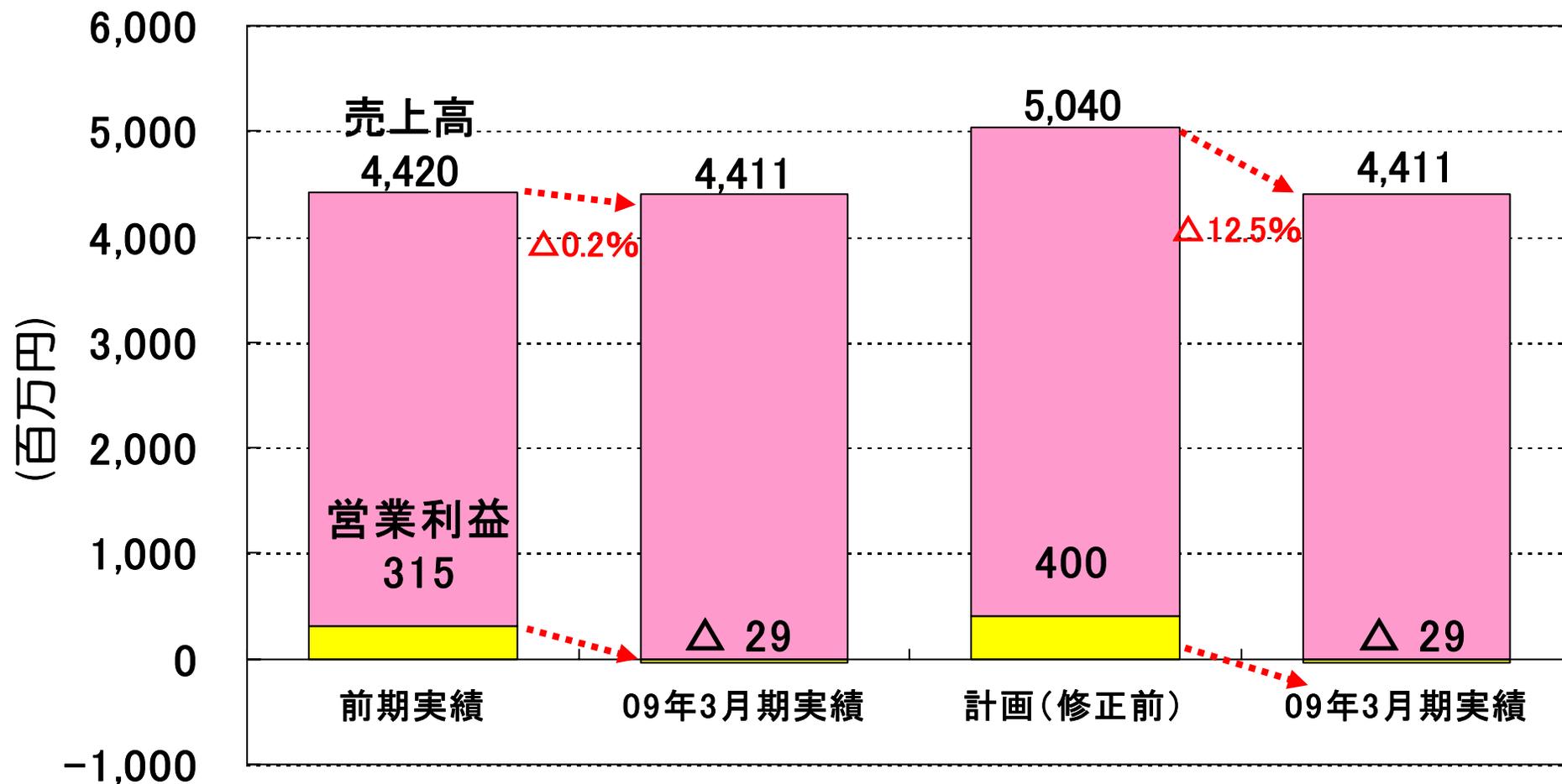
感光性材料事業 売上高推移

- 上期は、過去最高の好調なスタート
- 2Q後半以降、液晶パネルメーカー・半導体メーカーの生産調整が本格化
- 特に4Qは、1Qの約1/3に落ち込む



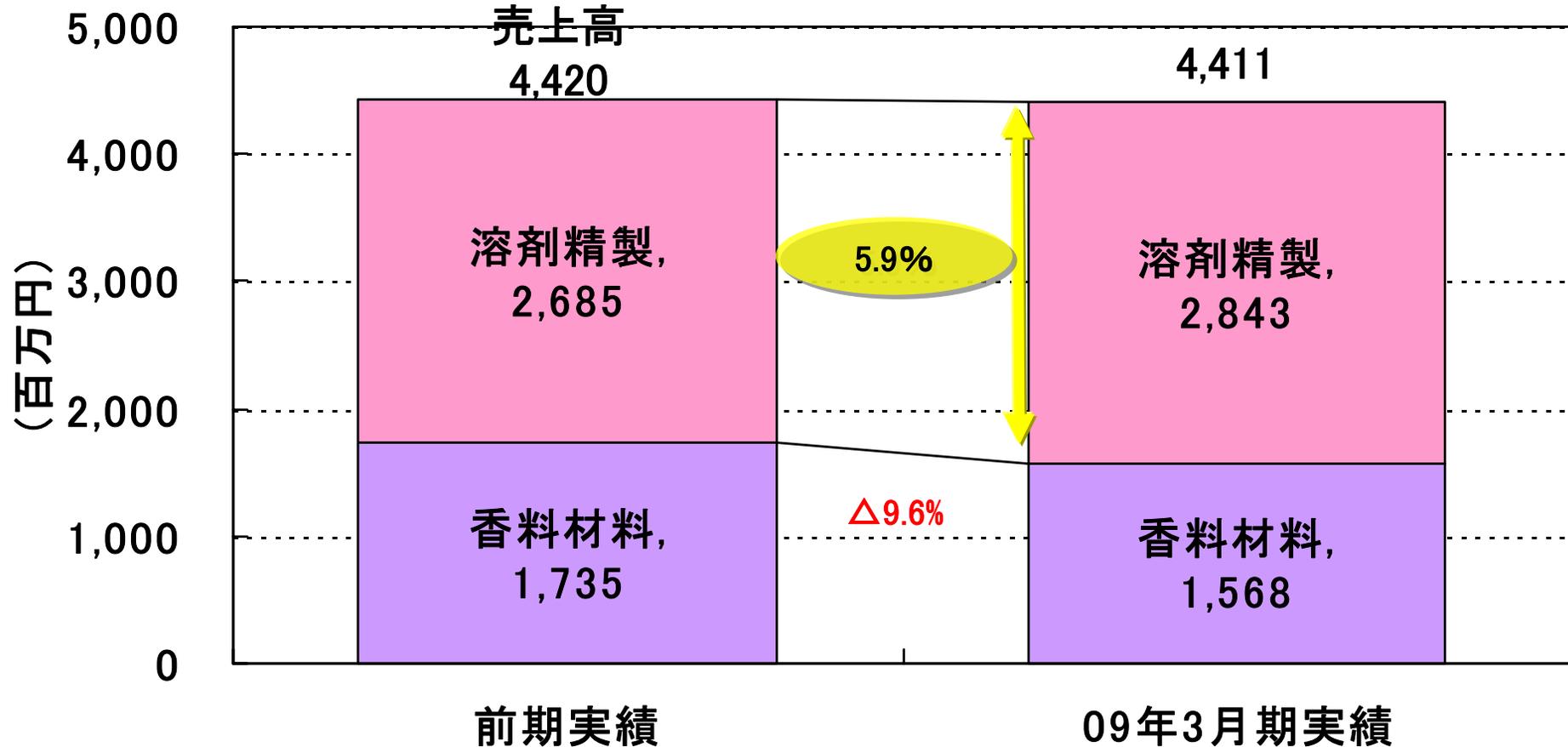
化成品事業 売上高・営業利益

- 売上高は、前年比0.2%の微減
- 営業利益は、原燃料費の高騰や稼働率低下に伴う原価上昇により営業赤字化



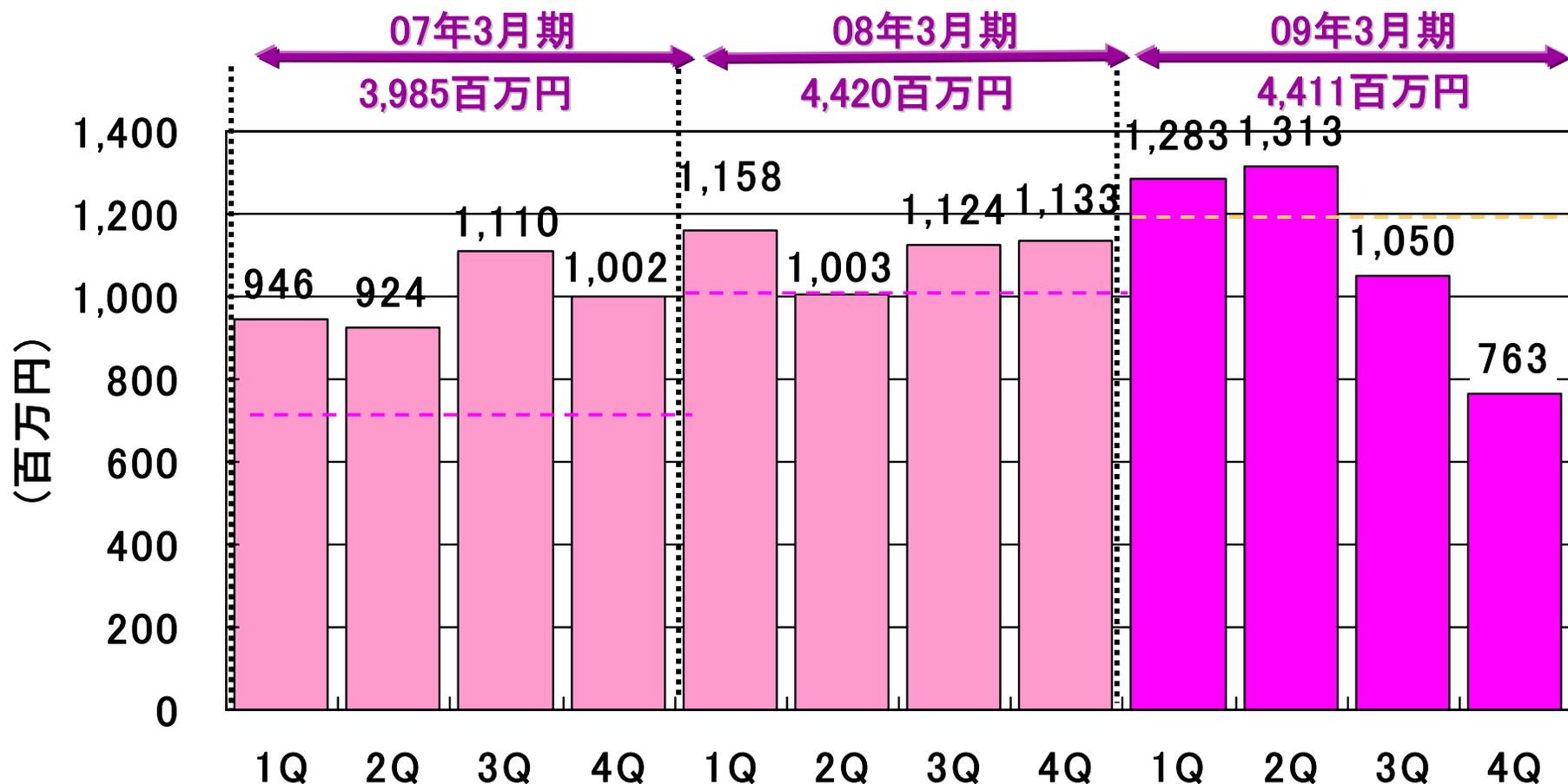
■ 化成品事業 用途別売上高

- 溶剤精製は、電材の生産調整の影響を受けたものの、拡販に注力し増加。
- 香料材料は、BRICs経済の減速、為替(円高ユーロ安)の影響により需要が減少



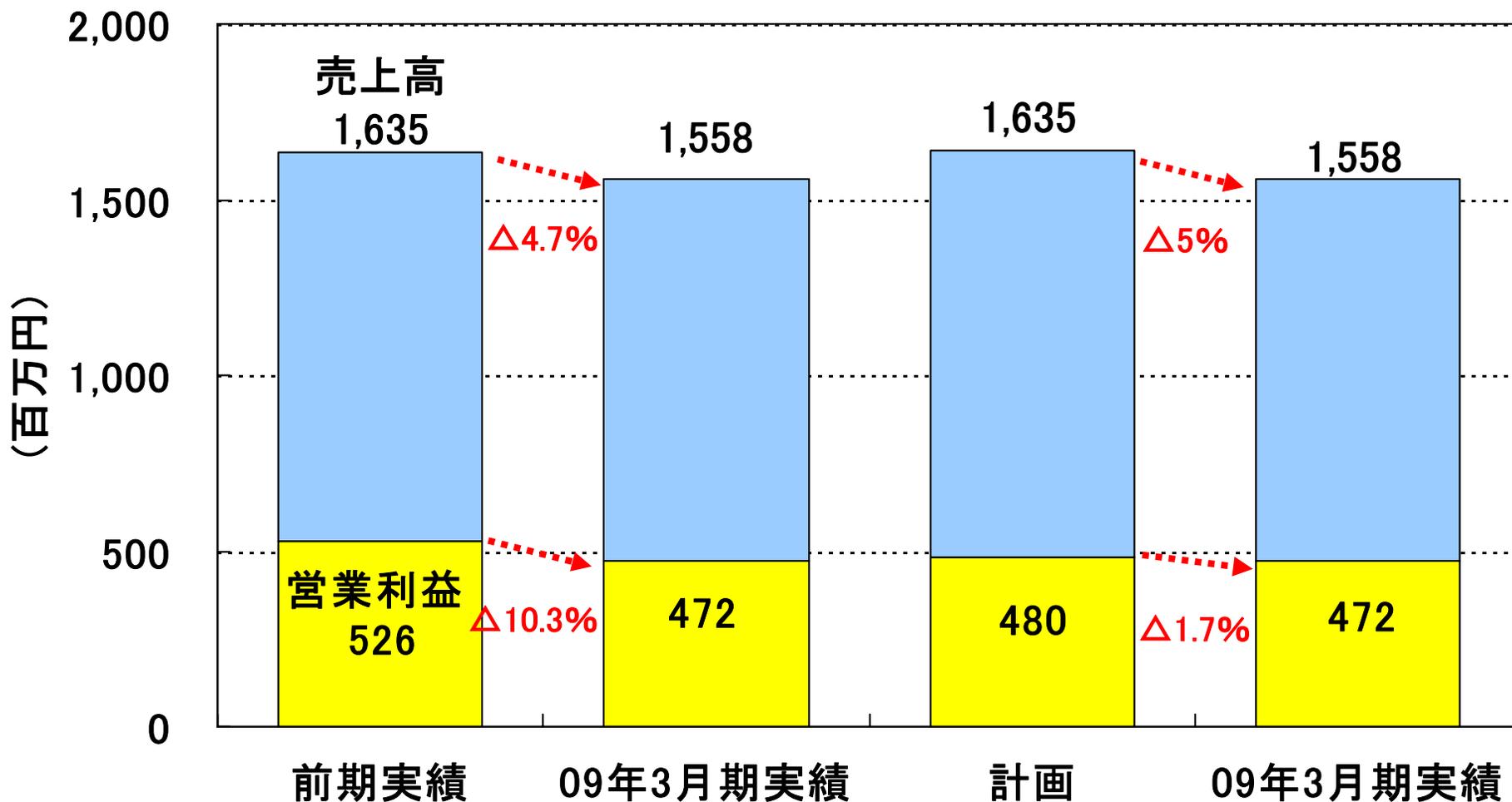
■ 化成品事業 売上高推移

- 上期: 高成長を維持し、過去最高の売上高を更新
- 下期: 景気減速に伴う需要量の減少により、3Qから4Qにかけ急落



■ ロジスティック事業 売上高・営業利益

・ 売上高・営業利益とも、景気減速により荷動き量が減少し、減収・減益。



■ 全社 損益計算書

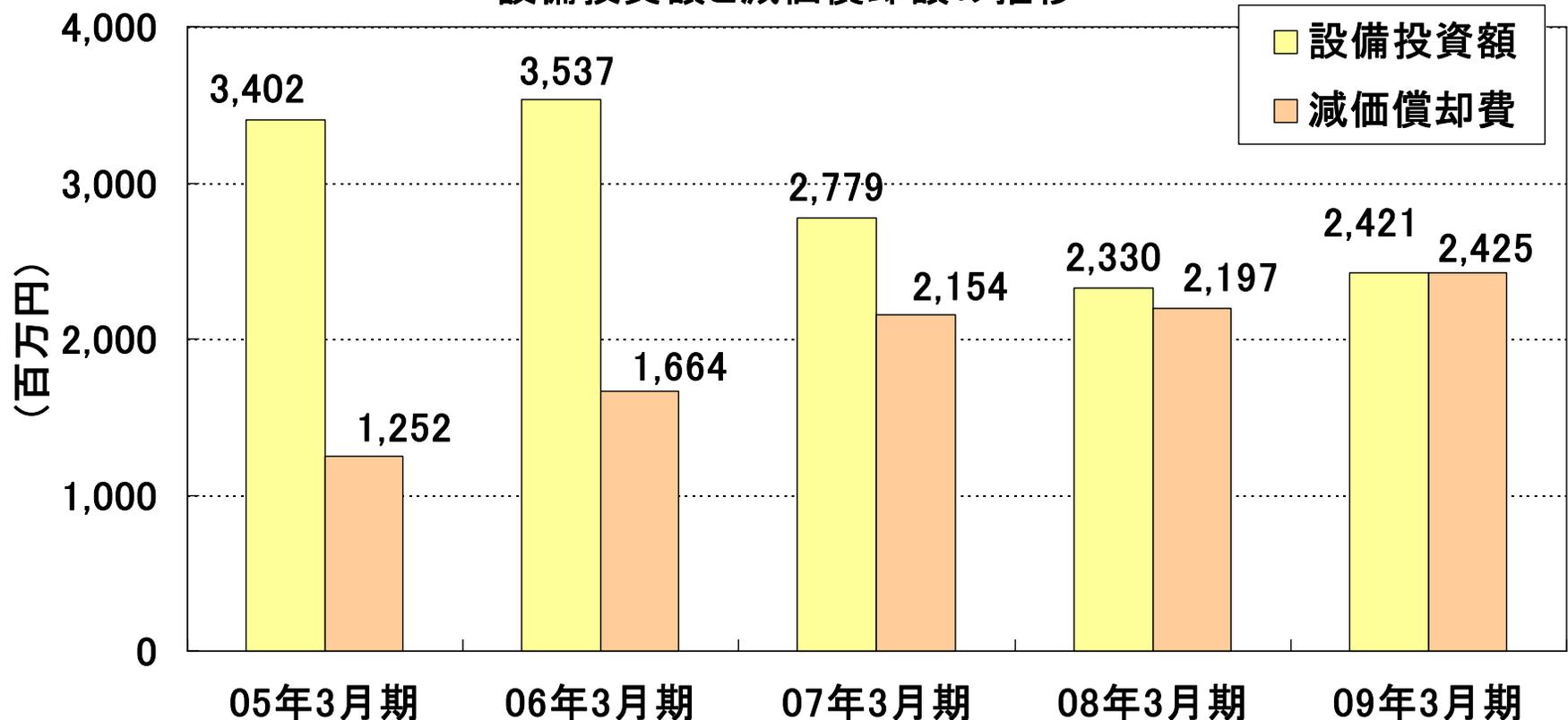
- ・ 売上は、下期から減速し、原価は、原燃料費の増加や稼働率の低下などにより増加、結果粗利は大幅減
- ・ 特別利益は、千葉工場電気室火災事故 保険金などを計上
- ・ 特別損失は、火災事故損失と被災設備の固定資産除却損などを計上
- ・ 税金費用は、繰延税金資産を取崩したため発生

科 目 (百万円)	2008年 3月期	2009年 3月期	対前年比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	15,002	12,200	△ 2,801	△ 19%
売上原価	12,463	10,764	△ 1,698	△ 14%
売上総利益	2,539	1,436	△ 1,102	△ 43%
販管費	2,065	2,109	44	2%
営業利益	474	△ 673	△ 1,147	—
営業外収益	107	126	19	18%
営業外費用	281	346	64	23%
経常利益	299	△ 892	△ 1,192	—
特別利益	804	704	△ 99	△ 12%
特別損失	549	415	△ 134	△ 24%
税引前当期純利益	554	△ 602	△ 1,156	—
税金費用	394	361	△ 33	△ 9%
当期純利益	159	△ 964	△ 1,123	—

■ 設備投資と減価償却費の実績

- 2009年3月期は、千葉工場の復旧工事,市川工場の設備増設,システム投資などを実施。
- 設備投資額は、減価償却費の範囲内に抑制。

設備投資額と減価償却額の推移



■ 全社 貸借対照表

- 売上急減により在庫が急増し、運転資金増加
- 短期借入金は、運転資金増により増加

科 目 (百万円)	2008年 3月期	2009年 3月期	対前年比	
			増減額	増減率 (%)
流動資産	9,953	8,579	△ 1,374	-16%
現金預金	1,513	925	△ 588	-64%
売上債権	2,983	1,254	△ 1,728	△138%
棚卸資産	4,584	5,760	1,175	26%
その他	871	639	△ 232	△27%
固定資産	17,071	16,981	△ 89	△1%
有形固定資産	15,731	15,615	△ 116	△ 1%
無形固定資産	480	688	207	43%
投資その他の資産	859	678	△ 181	△ 21%
資産合計	27,025	25,561	△ 1,463	△ 5%
流動負債	10,837	10,360	△ 476	△ 4%
買掛債務	2,293	1,248	△ 1,044	△ 46%
短期借入金	6,752	7,609	857	13%
その他	1,791	1,502	△ 288	△ 16%
固定負債	7,828	7,969	140	2%
長期借入金	6,510	6,245	△ 265	△ 4%
その他	1,318	1,723	405	31%
負債合計	18,665	18,330	△ 335	△ 2%
純資産合計	8,359	7,231	△ 1,127	△ 13%
負債純資産合計	27,025	25,561	△ 1,463	△ 5%

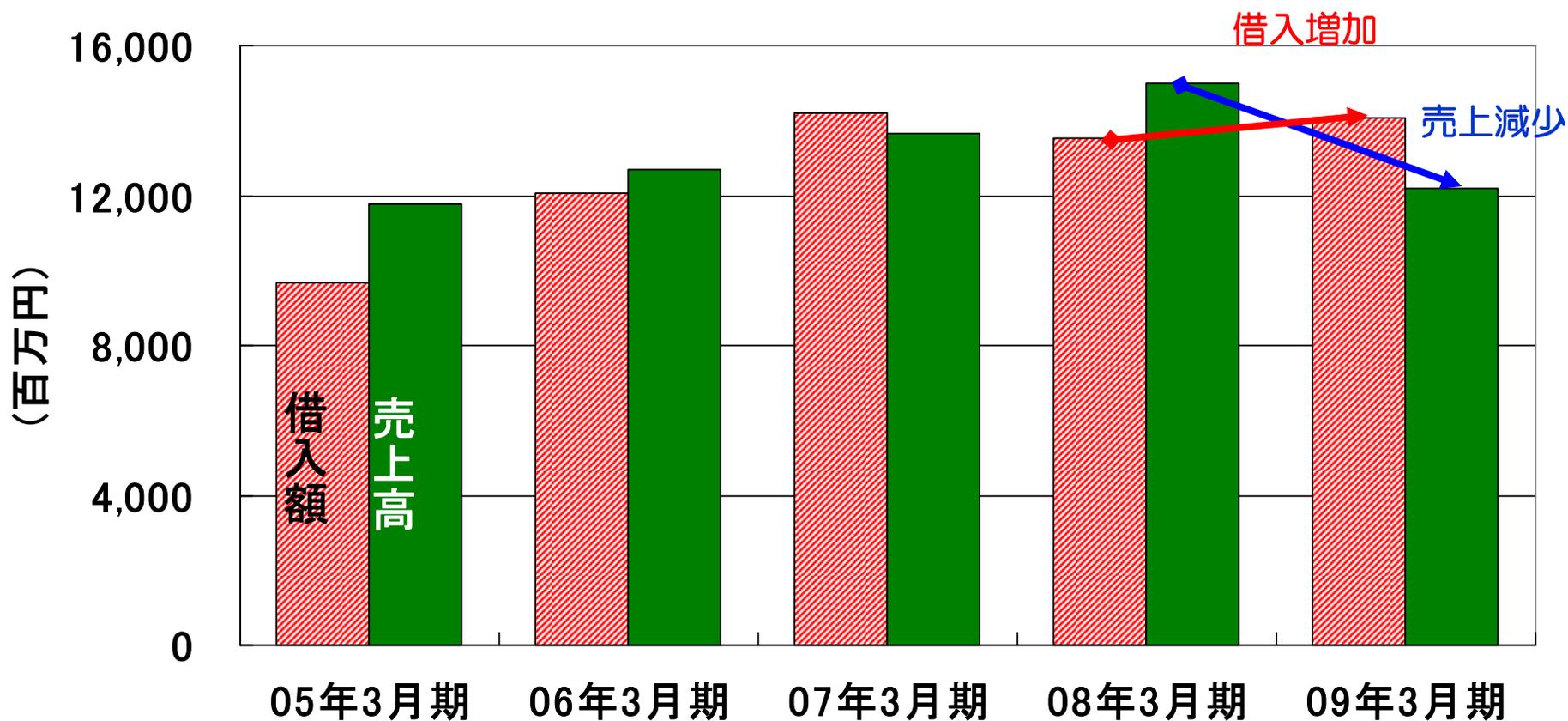
■ 全社 キャッシュフロー計算書

- 売上減少に伴う在庫増加および利益減少により、営業CFは半減
- 投資水準を維持したため、財務CFは増加

科 目 (百万円)	2008年 3月期	2009年 3月期	対前年比	
			増減額	増減率 (%)
営業活動によるCF	3,001	1,532	△1,469	△49%
税引前当期純利益	554	△602	△1,156	—
減価償却費	2,197	2,424	227	10%
売上債権の増減額	242	1,728	1486	614%
たな卸資産の増減額	603	△1,175	△1,779	—
仕入債務の増減額	118	△1,044	△1,163	—
その他	△714	202	917	—
投資活動によるCF	△2,371	△2,520	△148	—
財務活動によるCF	△605	399	1,004	—
現金及び現金同等物の増減	24	△588	△613	—
現金及び現金同等物の期末残高	993	405	△588	—

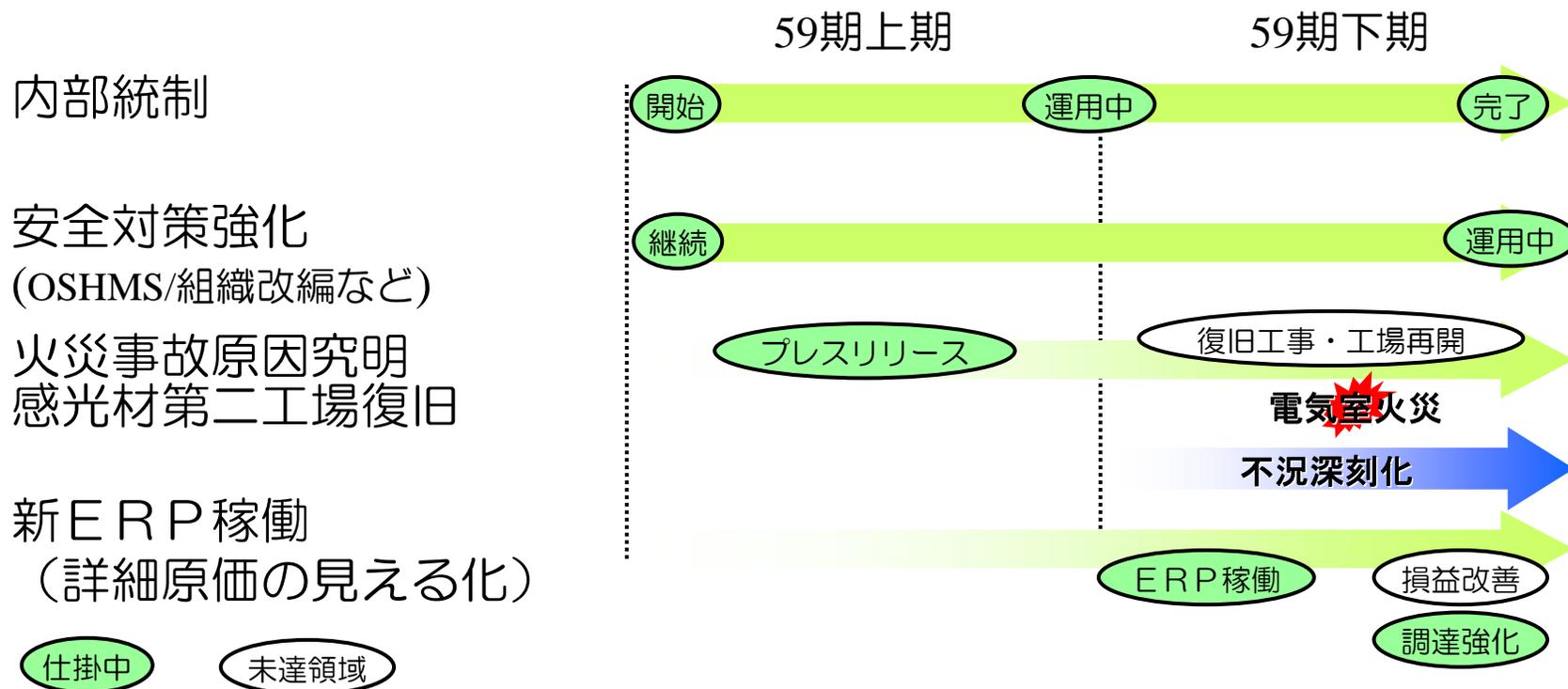
借入比率の推移

- 売上高の減少と在庫の増加に伴い、借入は上昇



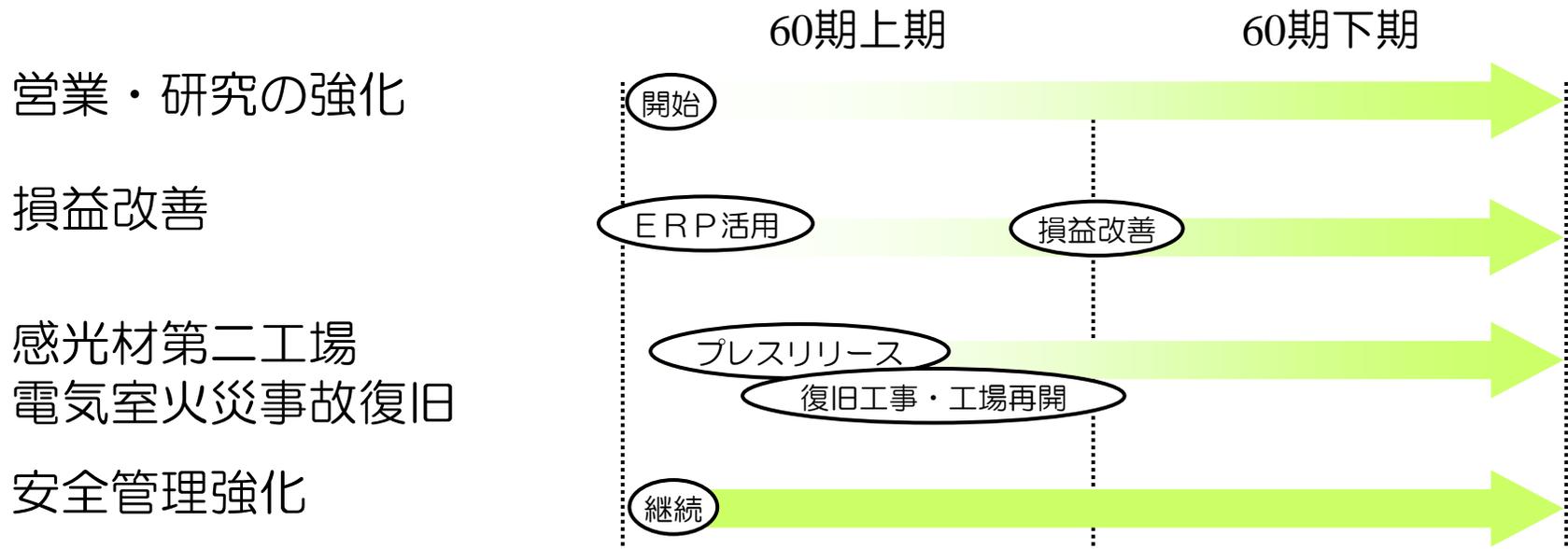
2009年3月期の重点課題(アップデート)

- 内部統制は完了し、継続運用
- 安全対策は、11月の電気室火災により再課題化
- 不況深刻化に伴い、損益改善が急務



2010年3月期の重点課題

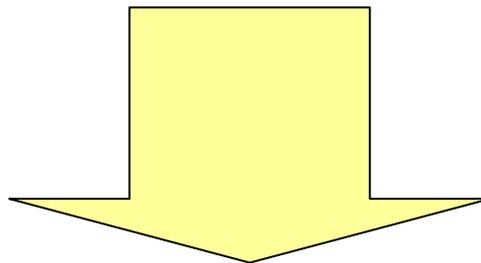
- 営業・研究を強化し、需要確保
- コスト管理を強化し、損益改善
- 被災設備を復旧し、安全管理は継続的に強化



2010年3月期に向けた 施策について

実施済の経費削減対策と予算立案時の対策

- ・ 60期予算策定における経費削減
 - 製造経費を16.3億円削減
 - 販売管理費を2.7億円削減
 - うち、人件費は4.3億円削減
 - 他、製品コスト構造を見直し中



利益の出る全社コスト構造への回帰

他の不況対策

- ・ **原材料価格と製品コストの見直し**
 - 09年3月期末から、原材料価格・製品コストを見直し中(継続)
- ・ **設備投資の抑制**
 - 09年3月期4Qから実施済み、10年3月期上期実施は極力回避
 - 状況により、さらなる削減を今後決定(継続)
 - 10年3月期設備投資6.7億のうち、真水は3.1億円、保険金受取分は3.6億円
- ・ **在庫削減**
 - 生産/在庫管理を強化し、需要変動に伴う在庫拡大を回避(継続)
 - 販売計画連動の在庫水準を設定し、経費支出を最小化(継続)
- ・ **財務施策**
 - 債権流動化、リース活用などを強化(継続)

2 . 2010年3月期 通期見通し

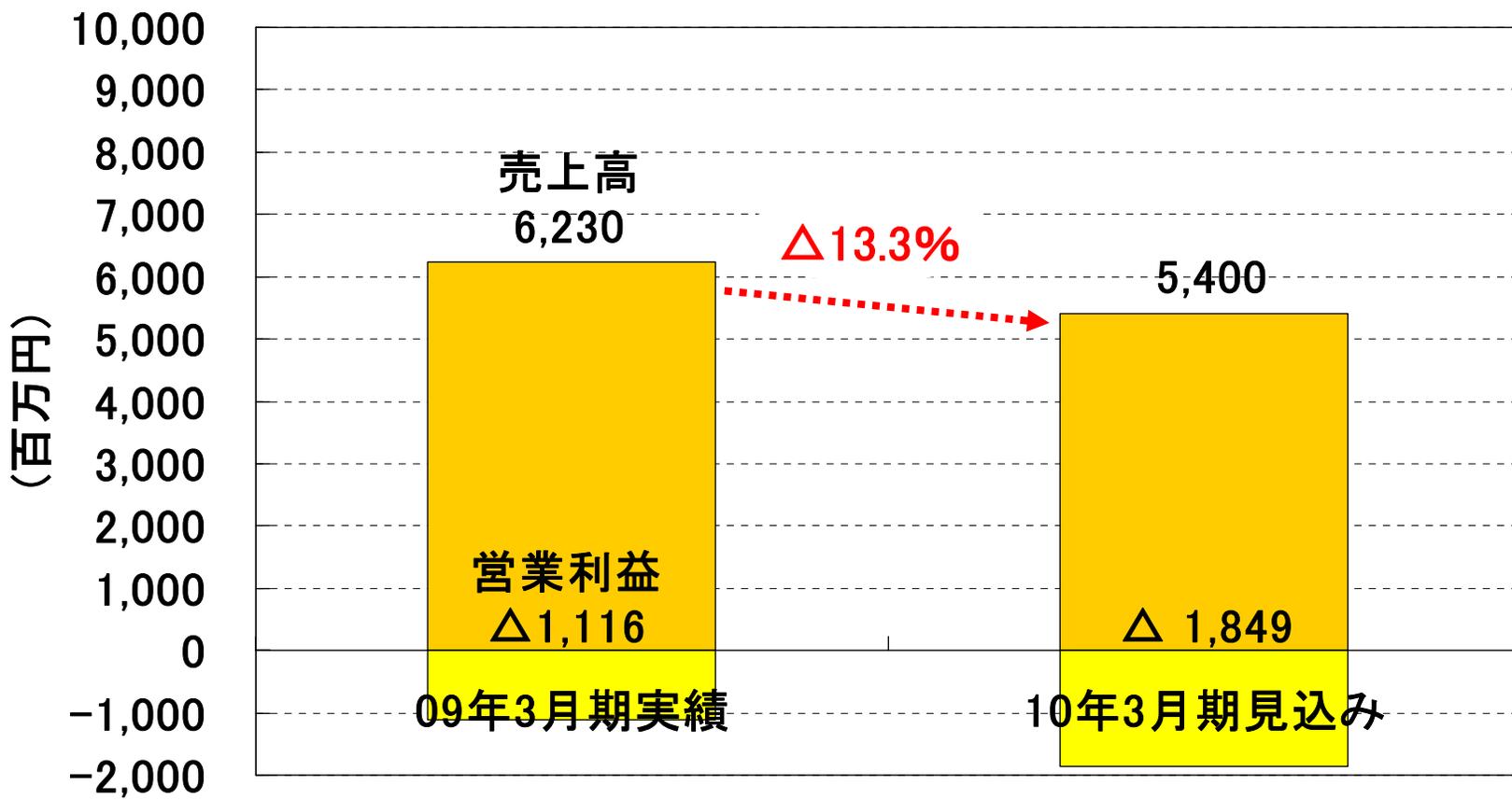
2010年3月期 計画

- 化成品事業は拡大するが、感光性材料事業の生産調整が継続し、売上高は減少。
- 前期持越しの高い製品・原材料在庫(約9億円)により、利益を圧迫。
- 営業利益・当期純利益とも、低稼働率により通期では赤字幅が拡大

科目 (百万円)	2009年 3月期 実績	2010年 3月期 計画	増減額	増減率(%)
売上高	12,200	11,600	△600	-4.9%
感光性材料	6,230	5,400	△830	-13.3%
化成品	4,411	4,700	289	6.6%
ロジスティック	1,558	1,500	△58	-3.7%
営業利益	△673	△1,600	△927	-
感光性材料	△1,166	△1,849	△733	-
化成品	△29	△183	△154	-
ロジスティック	472	433	△39	-8.3%
経常利益	△892	△1,800	△908	-
当期純利益	△964	△1,900	△936	-

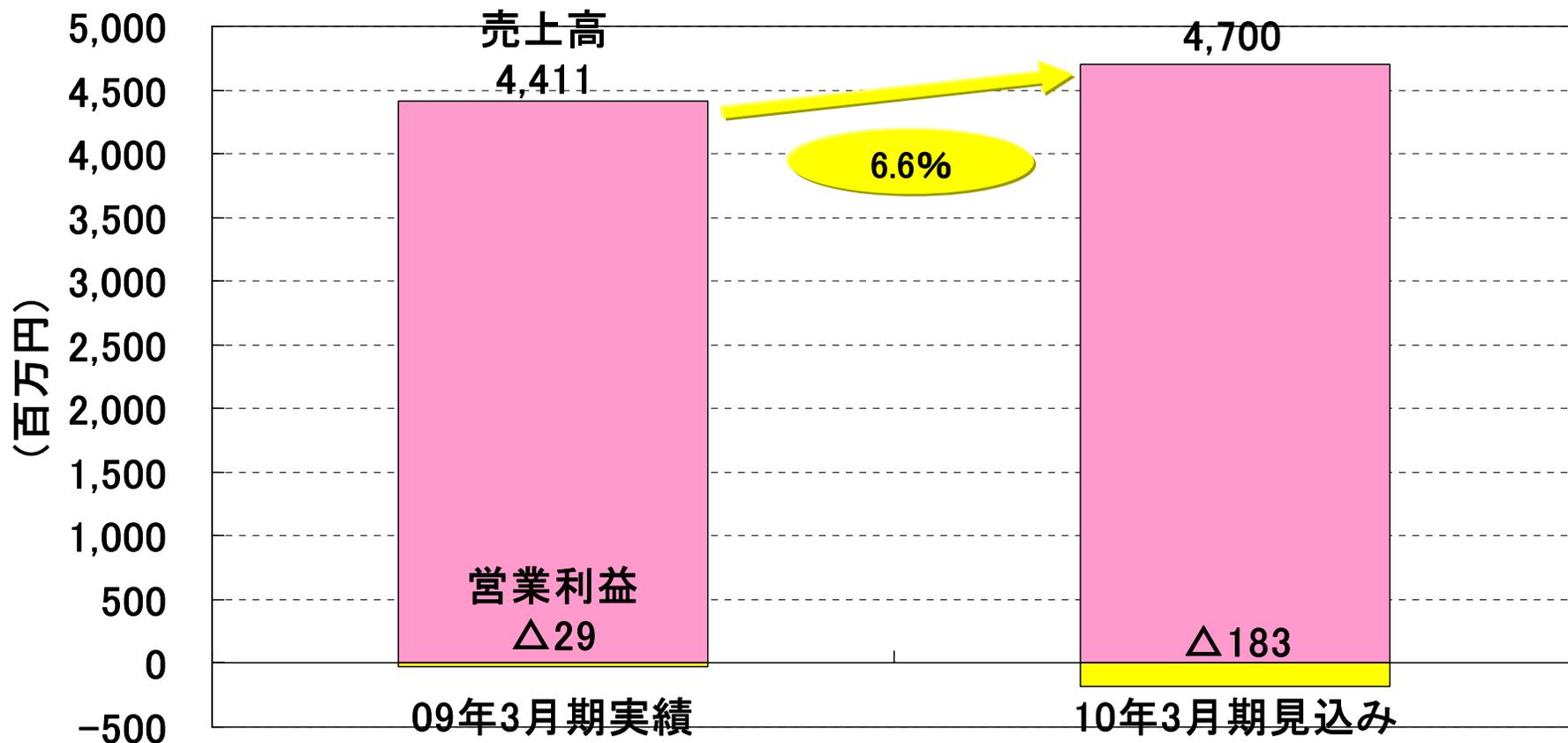
■ 感光性材料事業 計画

- ・ 売上高は、前年比13.3%の減少。営業損失が拡大。
 - 液晶パネル・半導体市場回復の遅れにより、売上高が減少。
 - 稼働率低下による、原価上昇のため、営業損失が拡大。



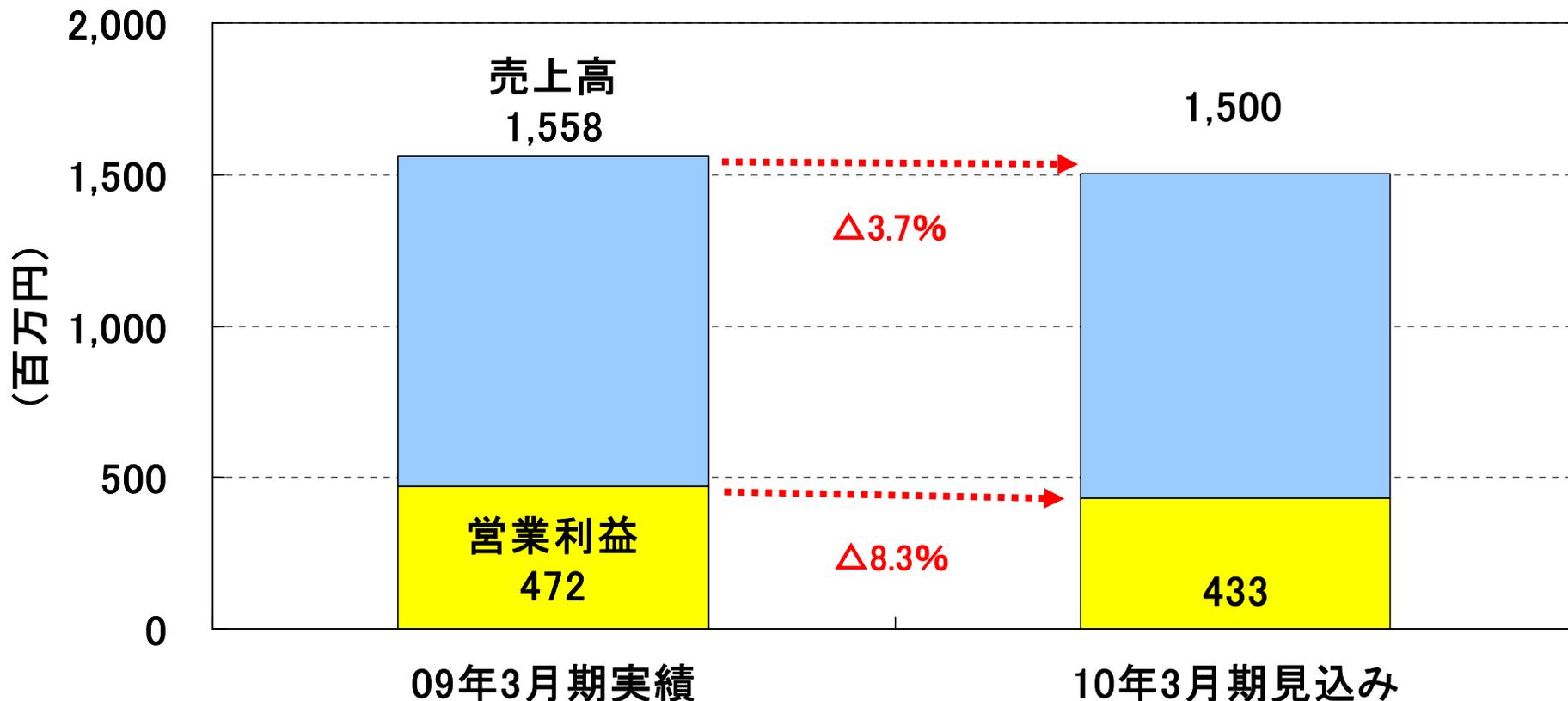
■ 化成品事業 計画

- ・ 売上高は、前年比6.6%の増収。営業損失は増加。
 - 香料材料事業の新規需要確保と溶剤精製事業での高付加価値品の需要獲得により、売上高は増収見込み。
 - 香料材料事業の減価償却費増加と溶剤精製事業の稼働率低下により、営業損失は拡大見込み。



■ ロジスティック事業 計画

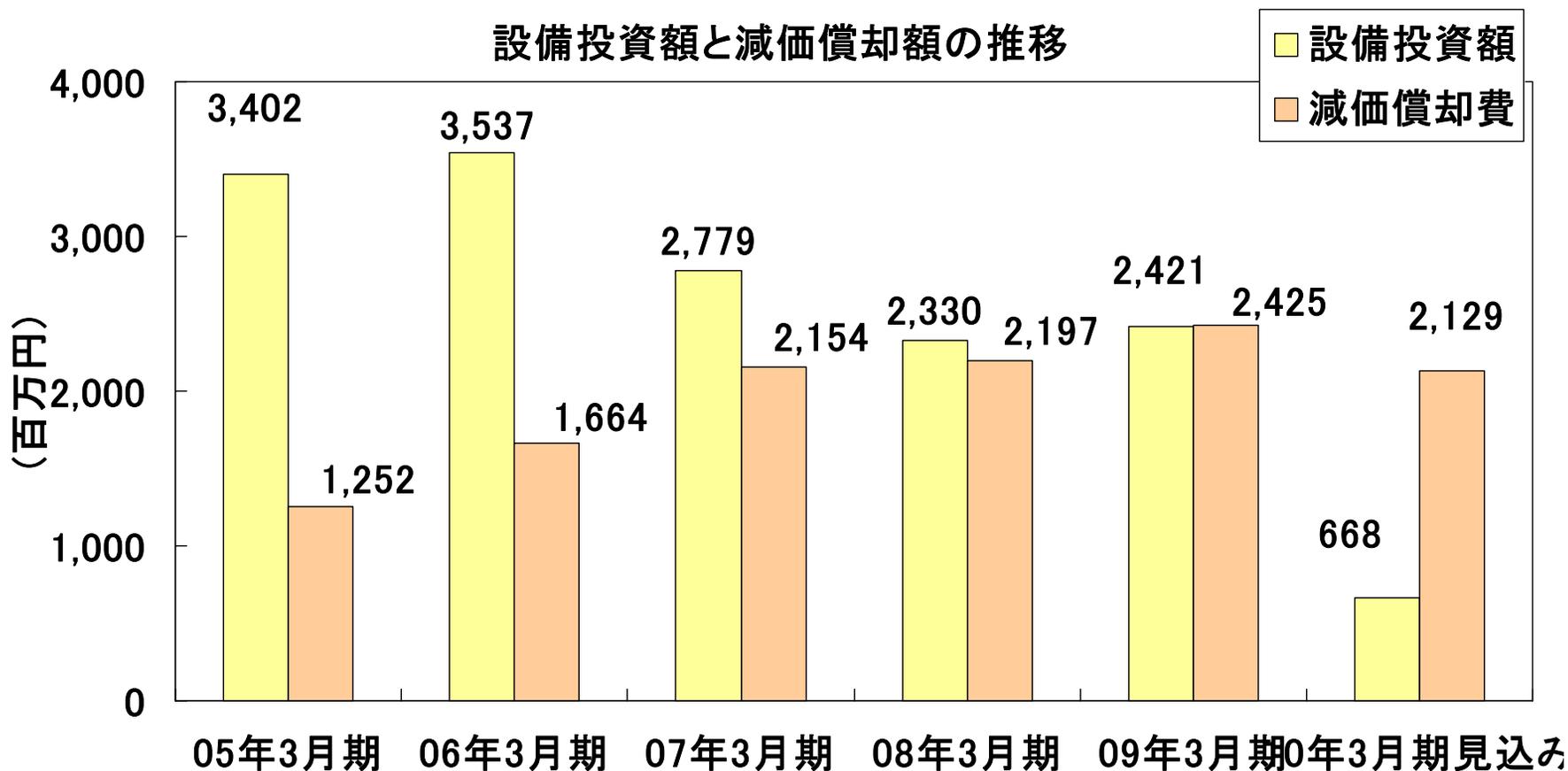
- ・ 売上高は、前年比3.7%の減収。営業利益は8.3%の減益。
 - タンク契約率は高水準を維持するが、景気減速による荷動量の減少に伴い減収見込み。
 - 営業利益は、売上減少に伴い減益見込み。



■ 設備投資と減価償却費の計画

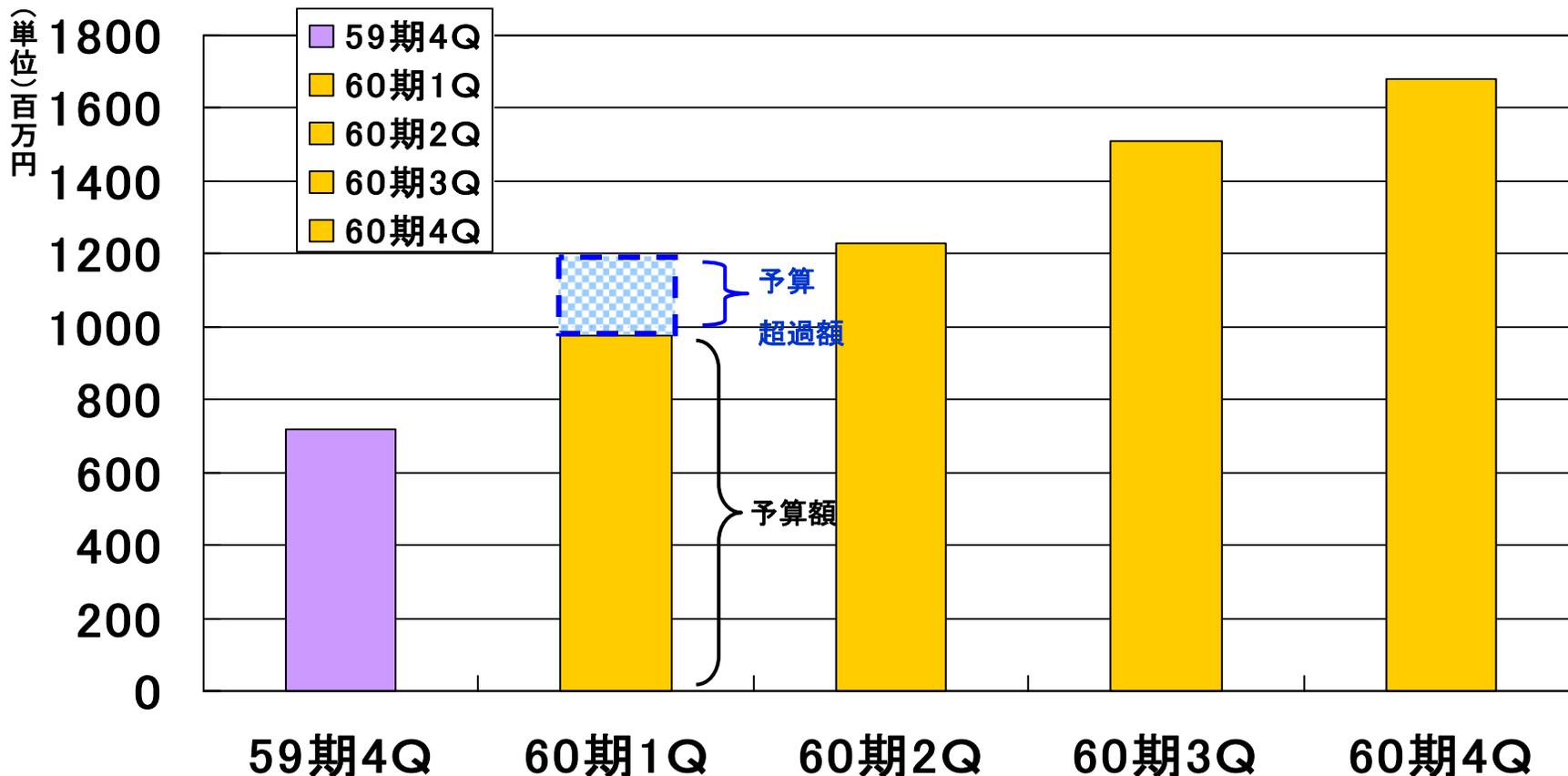
- 設備投資は、運転資金確保のため72%減少の見込み
- 6.7億円のうち、火災復旧3.6億円、真水は3.1億円
- 減価償却費は投資額の削減により12%減少見込み

設備投資額と減価償却額の推移



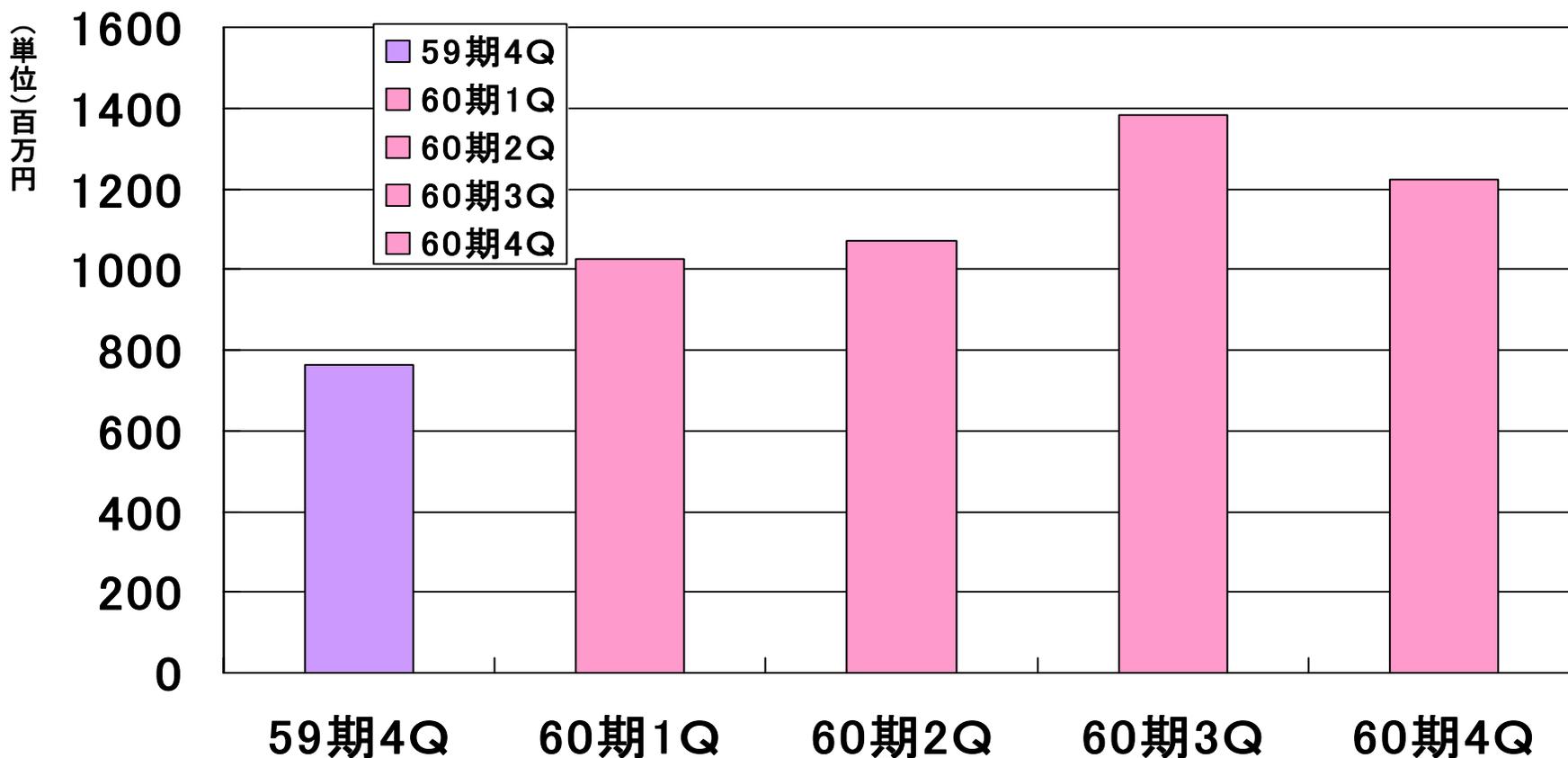
60期 感光性材料事業 売上高の推移

60期1Q売上高は、在庫調整の影響もあり予算比25%増加で推移



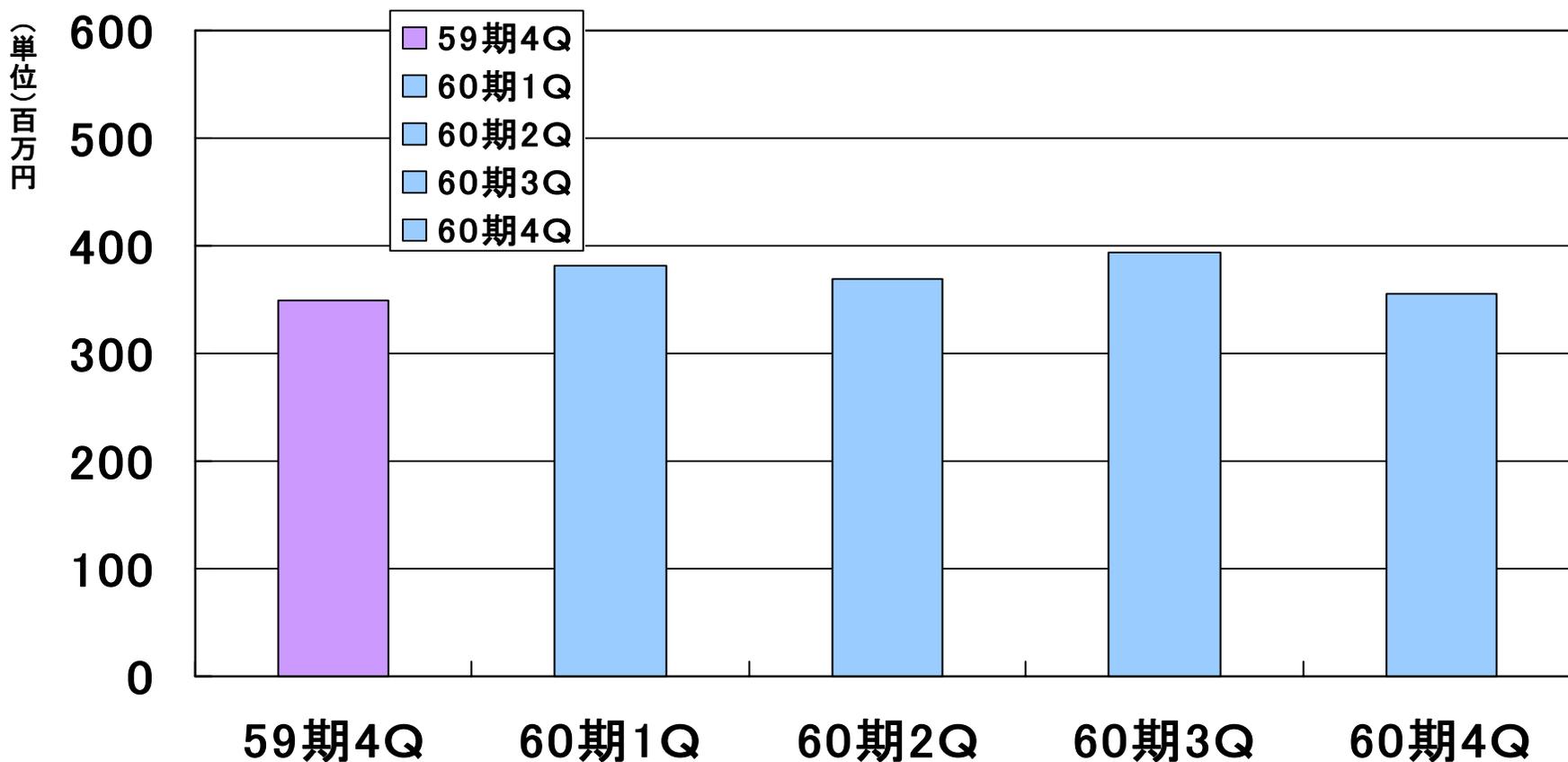
60期 化成品事業 売上高の推移

• 60期1Q売上高は、概ね予算値で推移



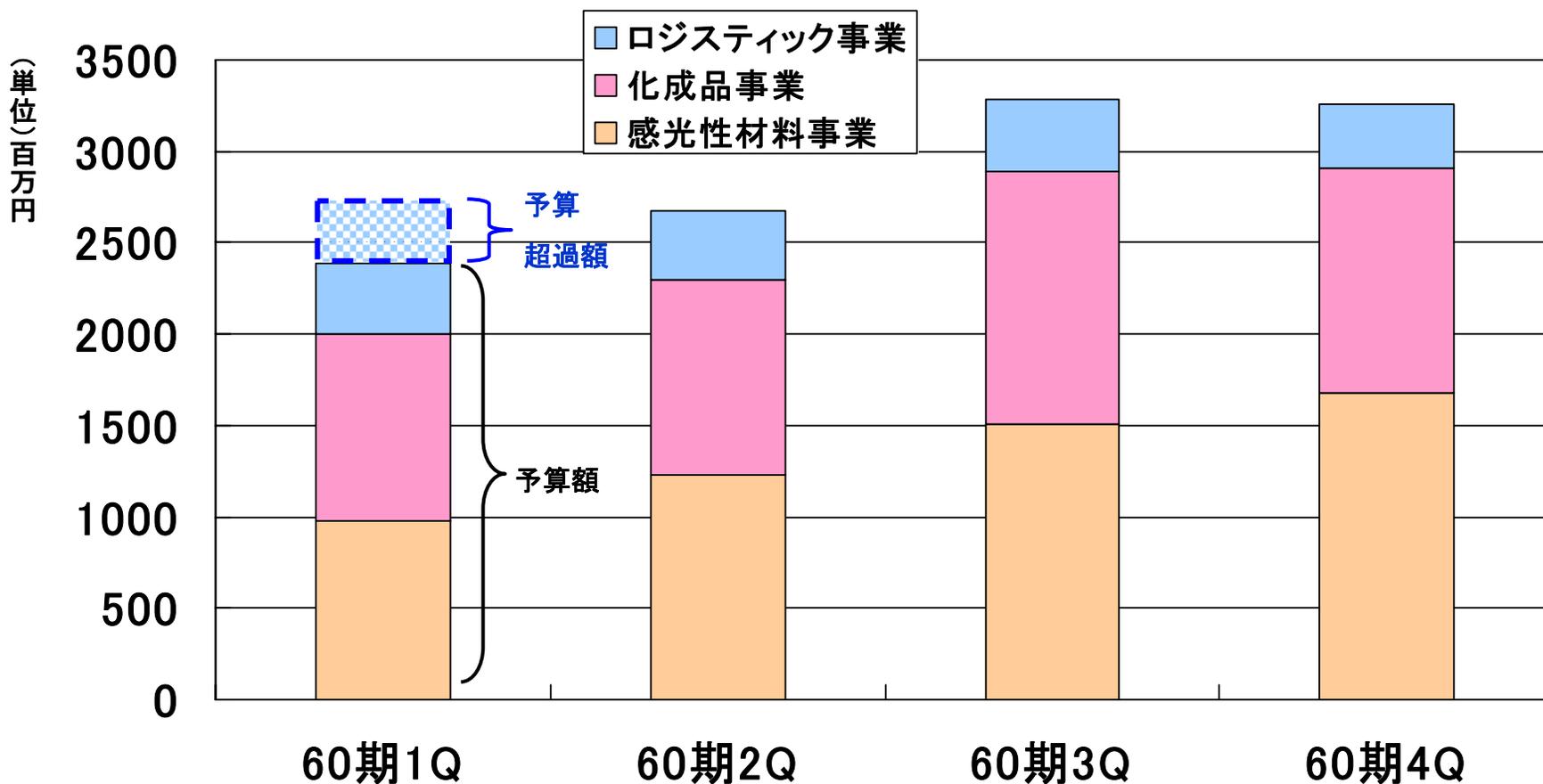
60期 ロジスティック事業 売上高の推移

- 60期1Q売上高は、予算比微増で推移



60期 売上高の推移

- 60期1Q売上高は、予算比10%増加で推移



3 . 今後の展望

感光性材料事業 展望

- ・ FPD市場は、2009年度早々に需要を拡幅
- ・ 半導体市場は、化学増幅系 (KrF・ArF・ArF液浸等) 中心に2009年末を境に成長へ回帰
- ・ 需要回復時の需要確保に向け、マーケティング強化

	液晶用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	EUV、EB
ノード	～200nm	～100nm	～150nm	～90nm	～65nm	～32nm	45nm～22nm	32nm～16nm
アプリ	TFT LCD パネル	小型高精細LCD (低温ポリシリコンTFT) 層間絶縁膜	ロジックIC (PC周辺機器など) PCB	ロジックIC (デジタル家電など)	システムLSI (携帯電話、自動車用ICなど)	2/4コアCPU システムLSI (ゲーム機など) NANDメモリ GBメモリ	コアi7CPU GBメモリ TBメモリ	最先端CPU 超TBメモリ フォトリソ(EB)
市場	中長期的に 低価格品が拡大	中長期的に 低価格品が拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	・商業化 拡大 延命化	材料開発中
対策	増産・拡販		生産プロセスの最適化			商業化		研究
	コスト管理 強化	コスト管理 強化	生産性向上	生産性向上	生産性向上	光酸発生材設計	モノマー設計 ポリマー設計 光酸発生材設計	初期化合物開発、 高感度・低LER材料 開発中

■ エネルギー事業 展望

- コスト改善完了、需要回復が待たれる。
- さらなる製品ラインナップを充実予定

電解液・イオン液体

- 継続的な営業活動により、電解液・イオン液体の認知度UP（展示会出展など）
- 電解液は商業化フェーズに入り、需要回復を期待

市場

電解液

キャパシタ

- グリーンエネルギーへのシフト（市場拡大）

対策

- 量産品のコストダウン
- 製品ラインナップの充実
- 未来への協業強化

イオン液体用途開発1

機能化学品として

- （電解質、潤滑剤、添加剤、導電性材料）
- ｽﾙ/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の研究が拡大

対策

- 品質評価・性能優位性をアピール、評価を依頼
- 素材メーカーとの協業展開

イオン液体用途開発2

プロセス化学品として

- （反応溶媒、抽出溶媒、吸収剤、蒸留）
- 市場規模は小
- 技術ハードルは高い

対策

- イオン液体の開発強化
- 市場ニーズの把握を実施

対策

■ 香料材料事業 展望

- ・ 大手香料メーカーに主力製品の販売を拡大。
- ・ 旺盛な需要に対応するため、生産能力を増強。

市場

・低コスト・高付加価値製品が望まれている

国内

- ・香料市場の安定化
- ・少子高齢化の進行
- ・嗜好品の拡大

海外

- ・香料市場の安定化
- ・BRICs市場拡大
- ・為替変動拡大
- ・世界主要香料会社によるM&A
- ・Flavor分野が伸長

対策

- ・グローバル対応（為替・法規）加速
- ・コスト削減
- ・新製品開発
- ・生産キャパシティ確保



需要確保
価格競争力強化

溶剤精製事業 展望

- グリーン化、リサイクル化などの環境対応をコアに拡大

- 不況による溶剤コスト圧縮ニーズ
- VOC排出規制など環境関連法規強化
- 電子材料向け溶剤



潜在的ニーズの
顕在化

印刷・粘着業界

印刷・粘着業界

- 不況

対策

- 業界団体と協力強化

電子材料業界

デジタル機器業界

- 不況

対策

- 感光材/エネルギーとの協業強化

他製造業

他製造業

- 不況

対策

- 営業強化

市場

対策

- ロジスティックとの協業強化
- 蒸留50年の信頼、立地、技術、コストパフォーマンス
- 技術開発により差別化

■ ロジスティック事業 展望

- ・ 不況によりタンク荷動き低下
- ・ 安定的な需要確保のため、高度なサービスを展開

市場 ・世界不況により国内荷動きが急速に悪化

対策 ・短期的契約でなく、長期契約を志向
 ・タンク契約率99%



東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。